

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：33104

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02512

研究課題名（和文）アメリカ絵本の黄金時代を創った編集者メイ・マッシーの思想

研究課題名（英文）The Philosophy of May Massee, an Editor who Brought about the Golden Age of American Picture Books

研究代表者

金山 愛子（KANAYAMA, Aiko）

敬和学園大学・人文学部・教授

研究者番号：90257436

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000 円

研究成果の概要（和文）：子どもの本の編集者メイ・マッシー(1882-1966)は、1000冊近い児童書を出版し、アメリカ絵本の黄金時代（1930年代）創出に貢献した。その半数以上が今でも出版されるほど類まれな編集者であったものの、その生涯や思想がまとめられてこなかった。「メイ・マッシー・コレクション」所蔵の出版物や、記事、書簡、回想録等を精査することで、マッシーの生涯で不明な点や思想を根拠資料によって明らかにした。大戦や移民の急増、大恐慌という激動の時代にあつて、マッシーは絵本を通して子ども達にどのような世界や価値観を示そうとしたのかを問い、その根幹に「民主主義」の思想があることを解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、個々の作家や作品研究では捉えることのできない、絵本や子どもの文学をめぐるダイナミックな運動を一人の編集者を軸として包括的に見るという試みに特色がある。移民の急増や大戦、大恐慌という激動の時代にあつて、メイ・マッシーは移民アーティストを積極的に起用し絵本の世界に革新をもたらした。移民の著しい増加をチャンスと捉えた彼女の仕事はコスモポリタンであると評されたが、その根底にあつたのは民主主義の価値観であることを解明した。当時のアメリカ社会の問題の多くは現代社会の問題でもある。よい絵本の基準や絵本の根底にある価値観など、子どもと本に関わる者が立ち帰ることのできる指針を示すことができた。

研究成果の概要（英文）： May Massee (1882-1966), editor of children's books, published nearly 1,000 books in her career and contributed to the creation of the Golden Age of American Picture Books. This study clarified her biography and her philosophy with evidences searched in her essays, speeches, and letters as well as recollections written by her authors, artists and friends, collected in the "May Massee Collection" of Emporia State University, Kansas. Through the research, I was able to illuminate what Massee valued in children's books and what she wanted to show to children, namely the value of "democracy," at the time of the drastic increase of immigrants, wars, and the economic crisis.

研究分野：英米・英語圏文学

キーワード：メイ・マッシー 絵本 編集 出版 民主主義

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 英米の児童文学作品の戦後日本への紹介は光吉夏弥、石井桃子、瀬田貞二、渡辺茂男に負うところが大きい。彼らのリソースとなったのはアメリカにおける児童図書館員や、出版社の児童書部門の編集者、書店員、児童書専門雑誌編集者らのネットワークと、彼らが出版した本や雑誌であった。石井らによって紹介された児童書の多くが、80 - 90 年経った今でも古びることなく、今なお子ども達に読まれている。

このネットワークの中心的存在である、ニューヨーク公共図書館のアン・キャロル・ムーアや、書店経営のかたわら、子どもの本と子どもの読書についての専門誌『ホーンブック』誌(*The Horn Book*, 1924-のちに *The Horn Book Magazine*)を創刊し、後にホーンブック社を創設したバーサ・マホーニ・ミラーについては伝記も出版されていた。しかし、もっとも作家や画家に近く、本作りに多大な影響を及ぼした編集者メイ・マッシー(1882-1966年)については、この時代を代表する児童書の編集者でありながら、「メイ・マッシー・コレクション」を所蔵するエンポーリア州立大学発行の文献目録書 *The May Massee Collection* (1979)および『ホーンブック』誌(1936年7-8月号)で組まれた特集のほかは、断片的なエピソードがあるだけで、彼女の伝記的資料や思想を体系化するまとまった研究成果は出ていなかった。

(2) 児童文学研究は作家や画家に関する研究や作品論が盛んであり、Leonard Marcus や Jacalyn Eddy 等のアメリカ人研究者によって児童書出版史研究が始められたのは 21 世紀に入ってからである。これまでのところ、そのような研究は社会的なアプローチをとっており、出版された作品をも包括的に論じる文学的アプローチはとられてこなかった。

## 2. 研究の目的

1920 - 1930 年代のアメリカ絵本の黄金時代創出の背景には、図書館員、編集者、書店員、児童書専門雑誌編集者らのネットワークがあり、これはこの時代のアメリカに特有な現象であったと言える。本研究の目的は、このネットワークの逸材、ダブルデイ社、ヴァイキング社の児童書部門の編集者であったメイ・マッシーに焦点をあて、その生涯と思想を明らかにし、どのような思想をもって本作りに臨み、子ども達にどのような価値観を伝えたいと考えていたのかを解明することであった。具体的には、以下の2点を中心的な問いとして研究を進めた。

(1) マッシーによる雑誌掲載記事、講演原稿、インタビュー、書簡、マッシーと交流のあった人々による回想録等から、編集者としてマッシーがどのような子どもの本を理想とし、本を通して子どもに何を伝えたいと考えていたのかを明らかにする。

(2) マッシーの思想が彼女の出版した作品にどのように反映されているのかを、具体的に例証する。

## 3. 研究の方法

上述の研究目的を達成するためには、米国カンザス州のエンポーリア州立大学ウィリアム・アレクサンダー・ホワイト図書館の「メイ・マッシー・コレクション」で所蔵されている資料の閲読・調査が不可欠であるが、それは研究期間2年目に実施することとして、まずは国内でできる調査をおこなった。

(1) マッシーの出した出版物(絵本や物語)で国内で入手可能なものをできるだけ講読した。

(2) マッシーのまとまった伝記が出ていないため、『ホーンブック』誌を中心としたマッシーによる寄稿文やマッシーをとりあげた批評文献、マッシーと関係の深い作家や画家に関する文献等を収集し、インデックスを作り精読した。またこれらの記事で取り上げられている作品にあたった。海外の図書館からも資料を請求できるものは取り寄せた。

(3) 上記の資料から、マッシーの仕事の輪郭を捉え、作家、画家、図書館員、書店員らとの関係性について整理した。

2年目にはエンポーリア州立大学を訪問し、「メイ・マッシー・コレクション」所蔵資料にあたった。

(4) この大学図書館が出している *The May Massee Collection: Creative Publishing for Children 1923-1963 A Checklist* (Emporia State University, 1979)を手掛かりに、アーカイブに所蔵されている関連資料のできるだけ多くにあたった。中でも貴重だったのが、「メイ・マッシー記念委員会」が呼び掛けて集めた、作家や画家、同僚、その他縁のある人々が書いた回想録(*Recollections*)である。また、メイ・マッシー自身による原稿やインタビュー記事などから、マッシーの生涯や思想を知る手がかりとなるものを洗い出し、700ページに及ぶ資料を複写することができた。その他、絵本の原画やダミーの現物を見るなどして、絵本作りの手順を確認することができた。

(5) ニューヨーク州の公共図書館をいくつか訪れ、メイ・マッシーが出版した本の中でどのような作品が今でも読まれているのか、図書館員への聞き取りをおこなった。

3,4年目は、主に「メイ・マッシー・コレクション」から入手した資料の精読と、作品との関連を考察する時間にあてた。事実確認の必要が生じた事項や、さらなる調査が必要となった事項については、『ホーンブック』誌等、国内で確認が可能な資料で調査した。

当初の研究期間は3年間の予定であったが、研究がやや遅れていたことから4年間に延長した。

#### 4. 研究成果

##### (1) メイ・マッシーの生涯に関する伝記的事項の調査

メイ・マッシーの生涯についてまとめた伝記は存在せず、生年に関しては、*The May Massee Collection* 内の複数の書き手による記述で1881年か1883年かで齟齬が生じていた。地元新聞紙の訃報記事でも没年を1966年として84歳と記述しながらも、生年には触れないという奇妙な現象が起きていた。マッシーの生涯を整理するうち、彼女が学齢に達する年齢になる前から小学校へ通い始め、飛び級もしたため、一般の学生よりも若年で教育を終えたことが判明し、そこに混乱の一因があったと考えられる。最終的には、1882年とした『ホーンブック』誌のお悔み欄の年号を正確な生年として確定できた。

マッシーの生涯については、主に「メイ・マッシー・コレクション」所蔵のコロンビア大学オーラルヒストリー・プロジェクトによるインタビュー記録を基に、マッシー自身が語る彼女の幼い頃の思い出や教育歴、教員、図書館員としての経歴、ALAのブックリスト編集者の職を経てダブルデイ社入社までの経歴を時系列に整理することができた。詳しくは拙著「アメリカ児童図書館黎明期に子どもの文学普及に貢献した人々(7)～メイ・マッシー～」(『敬和学園大学研究紀要』第29号、2020年)にまとめた。

ダブルデイ社、ヴァイキング社入社後の職業人としての働きや晩年に関しては、拙著「アメリカ児童図書館黎明期に子どもの文学普及に貢献した人々(6)～メイ・マッシー～」(『敬和学園大学研究紀要』第27号、2018年)にまとめた。

##### (2) メイ・マッシーの本作りにについて

子どもの本の編集者としてのメイ・マッシーの仕事ぶりについても、『ホーンブック』誌のメイ・マッシー特集号や「メイ・マッシー・コレクション」の回想録を主な根拠資料として、多くの証言から明確にすることができた。彼女の本作りの指針あるいは哲学を3つに集約した。1つ目は「テキストの吟味」、2つ目は「真実の追求」、3つ目が「美しい本作り」である。

マッシーは、絵本においてはよいストーリーが大事であるという信念をもっており、よいストーリーは絵が下手でも損なわれることはないが、どんなにすばらしい絵でも、下手なストーリーをよく見せることはできないと考えていた。そこで彼女は、絵本のテキストの言葉を厳しく吟味し、作家には言葉の無駄を省くことを要求した。特に絵本のテキストでは、物語を損なうことなく一言も取り除くことができないまでに、どの言葉も意味ある言葉となるまで切り詰めた。そのようにして明快に筋を進めつつ、安心感や秩序を与える繰り返しやリズムは生かし、そのテキストが完璧な物語になるまで妥協することはなかった。さらに、マッシーが物語についてこうあるべきだと述べることは滅多になかったが、「子どもの本にははっきりとした構造がなければならない」と言い、物語が「アーチのように組み立てられ、明快に始めて、頂点に向かってアイディアを掲げていき、それから再び下に降りてくる。その仕事が終わった時に、完成した完璧な形をしている」ことを理想としていた。これは子どもの本作りの文法とも言える理論である。

第二の「真実の追求」に関しては、「真実」という言葉にはロマン派的なイメージをもちやすいが、これは子どもに対する大人の誠実さと解して良いだろう。子どもにこそ最良の本を与えたいという態度で仕事に向き合っていたマッシーは、子どもの本だからということで妥協したり、ごまかしたりすることはなかった。動物の絵が上手くない画家には、もっと動物の研究をするようにとアドバイスし、メキシコの暮らしについての絵本を書こうとする作家には、メキシコに行って、そこで物語を書くようにと言った。このような努力を作家や画家に課したのは、マッシーが、子どもは常識に縛られることなく、大人が「空想」という言葉で片づけてしまう事柄を子どもは真実として体験できると考えていたからだ。彼女はいつもこのことを肝に銘じて本を編集していたと言う。

第三の「美しい本作り」は、「子どもの本は美しくなければならない」というマッシーの思想を具現化した総合芸術としての本作りであり、同僚の職人たちとの協働作業の結果であったと言える。専門の職人と物語の内容をもっともよく体现する本作りを目指していた。しかも本は売れなければならないため、編集者でありながら価格や印刷部数の決定にまで関与し、ぎりぎりの線ですできるだけ美しい本を出版した。

マッシーの本作りとその思想に関しては、拙著「アメリカ児童図書館黎明期に子どもの文学普及に貢献した人々(5)～メイ・マッシー～」(『敬和学園大学研究紀要』第26号、2017年)、2017年度のThe 3rd Asia Oceania Regional IBBY Congress(国際学会)での口頭発表(於 バンコク)とproceedings、および2018年度の第21回絵本学会(於 札幌大谷大学短期大学部)で発表した。

(3) メイ・マッシーの思想および、その思想が作品にどのように反映されているか

世界大戦、移民の流入、大恐慌という激動の時代、迫害や戦争を逃れてアメリカに渡ってきた移民アーティストをマッシーは重用した。それらの本は「コスモポリタン」とであると評され、彼女自身もそれを認めている。その理由として、多様性、関心の幅の広さ、オリジナリティ、趣味の良さ、移民がもたらした祖国の芸術的手法が挙げられる。しかしマッシーの思想は「コスモポリタン」であることにとどまらず、「民主主義」こそがその特質であることが解明できた。彼女の出版した作品からは、「民主主義」によって可能となる「自分自身であること」に価値を置く思想が見てとれる。「アメリカの子どもの本の出版は、自由で普遍的な教育という考えから生み出されたものです。それは一人ひとりの子どもへの教育は、その子が全人格として成長し、自分の中の最大の可能性を知り、自分の周りや外国にいる他の人々への最大の理解をもつ人になった時に成功したと言えるという考えです」と語るマッシーの思想が、どのように作品の中で具体化され、「自分自身であること」を励まし、自分の周りや外国にいる人々へ関心を向ける工夫がなされていたかを検証し、当時のアメリカの、そして現代の私たちの課題への彼女の応答として読み取ることができた。

これらの研究成果の 2018 年度までの学会発表や論文の段階では、本のデジタル化が進み、活字離れが叫ばれて久しい現代社会の課題とマッシーの思想や業績を明確に関係づけることができていなかったことが反省点であった。研究を進めるうちに、マッシーの思想の基盤に「民主主義」の思想があることが分かった。今日のグローバル化による移民の流動とそれに伴う差別や排外主義は、マッシーの時代との共通課題である。難しい言葉を使わずに民主主義とはどういうものであり、何を可能にしてくれるのかを示しているのではないかという仮定でマッシーの出版物を改めて読んでいくことで、その今日的な意義を今後さらに浮き彫りにしていきたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 金山愛子	4. 巻 29
2. 論文標題 アメリカ児童図書館黎明期に子どもの文学普及に貢献した人々（7）～メイ・マッシー ～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 敬和学園大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 21～40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Aiko Kanayama	4. 巻 -
2. 論文標題 Remaining Physical: What We Can Learn from "the Makers of the Golden Age of American Picture Books".	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The 3rd Asia Oceania Regional IBBY Congress: proceedings:	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 金山愛子	4. 巻 27
2. 論文標題 アメリカ児童図書館黎明期に子どもの文学普及に貢献した人々（6）～メイ・マッシー ～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 敬和学園大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金山愛子	4. 巻 26
2. 論文標題 「アメリカ児童図書館黎明期に子どもの文学普及に貢献した人々（5）～メイ・マッシー ～	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 敬和学園大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1～22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 金山愛子
2. 発表標題 アメリカ絵本の黄金時代創出に貢献した編集者から学べること
3. 学会等名 絵本学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Aiko Kanayama
2. 発表標題 Remaining Physical: What We Can Learn from "the Makers of the Golden Age of American Picture Books".
3. 学会等名 The 3rd Asia Oceania regional IBBY Congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

敬和学園大学H.P.「研究・出版」（研究紀要論文） <a href="https://www.keiwa-c.ac.jp/wp-content/uploads/2017/02/kiyo26-1.pdf">https://www.keiwa-c.ac.jp/wp-content/uploads/2017/02/kiyo26-1.pdf</a> <a href="https://www.keiwa-c.ac.jp/wp-content/uploads/2018/02/kiyo27-1.pdf">https://www.keiwa-c.ac.jp/wp-content/uploads/2018/02/kiyo27-1.pdf</a> <a href="https://www.keiwa-c.ac.jp/wp-content/uploads/2020/02/kiyo29-2.pdf">https://www.keiwa-c.ac.jp/wp-content/uploads/2020/02/kiyo29-2.pdf</a>  The 3rd Asia Oceania Regional IBBY Congress proceedings, Plenary and Main Sessions: Parallel Session 3, T-71 <a href="http://ibbyaoric2017.tkpark.or.th/download.html#proceedings">http://ibbyaoric2017.tkpark.or.th/download.html#proceedings</a>
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----